

# 図書館の窓から

  
2012.1  
No.135



(ざくろ 田中 玉蘭/画)

「ざくろ」は古くから薬や豊穰と子孫繁栄のシンボルとして、世界中で愛されている果実です。中国では、お祝い事に欠かせない縁起物とされています。

## 【特集記事】

### ◆私の一冊

郷土史研究家 深滝 純一 さん ..... 3 p

### ◆長岡市立図書館の歴史

第2回 昭和元年～昭和20年 ..... 4～5 p

# 館長通信



～ 図書館は市民の心のオアシス ～

新年おめでとうございます。

昨年は、震災・水害・台風災害と災難続きの1年でした。それも国内だけでなく海外でも。今年世界的に、平穏無事な年でありますよう祈っています。

東日本大震災では、長岡市に避難されている方々へ本を提供しようと、当館が呼び掛けをしたところ、多くの市民の皆様から大量の本をいただきました。早速各避難所にお届けしましたが、避難されている皆様うれしそうに本を手取る表情が

とても印象的でした。

逆に、8年前の新潟県中越地震の際には、避難所となった当館に対し、県内外から多大なご支援をいただきました。遡って、昭和20年8月1日の空襲により焼失した「大正記念長岡市立互尊文庫」は、多方面から3千冊の寄贈を受け、空襲から40日後にわずかに焼け残った書庫を利用して、再開にこぎ着けています。

これらを通じて感じることは、苦しいときの本との出会い



は、私たちに勇気を与えてくれるということです。その意味で、図書館は“市民の心のオアシス”と言えます。

今年も職員一同、皆様のご来館をお待ち申し上げます。

小倉 進

## 文書資料室だより

### 越路地域の庄屋の三箇日

中沢新田村(長岡市越路中沢)は、寛延元年(1748)、道半村(長岡市神谷)の山本喜五郎が紫雲寺村(新発田市)の中沢太郎左衛門の協力を得て開墾し、明和元年(1764)に検地を受け、一村として成立しました。初めは淀藩領、天明6年(1786)に幕府領、寛政元年(1789)から長岡藩領となりました。中沢新田村を開き、庄屋になった山本家は、初代・喜五郎にはじまり、二代目・助市、三代目・助三郎(天保12年に仁之進と改名)、四代目・潤吉に続きます。

文書資料室には、山本家の古文書があります。文久3年(1863)の帳面から、幕末の頃の、庄屋の新年の様子を見てみましょう。



文久3年の年中行司(行事)の帳面

正月元日。神棚へお神酒をあげ、先祖のお墓参り。村中の男たちが、まず潤吉宅へ、次に仁之進宅へ年頭の挨拶にやって来ます。山本家は、おひたし、数の子、ひしこいわしと大根の和え物、いかののっぺを肴に、濁り酒や屠蘇とそを振る舞います。

二日。今度は村の女房たちや他村の小作人の人びとが挨拶にやって来ます。またもや酒を振る舞います。仁之進は翌日の長岡城への年頭の挨拶にそなえ、長岡へ出かけ、料理本『新篇料理活用』を著した肴屋の高野久太郎のところで打ち合わせをし、宿に泊まります。

三日。長岡城へ登城です。家老、奉行、勘定頭などへは上酒を、主要な藩士たちへは蕎麦粉を贈ります。親類やお寺にも年頭の贈物をしています。

寝正月とはほど遠い、人づきあいに気を遣う、あわただしい年の始まりだったようです。

(小林 良子)

# 私の一冊



『世に棲む日日』1～4巻  
司馬遼太郎／著  
(文春文庫刊)

## 郷土史研究家 深滝 純一 さん

私は日本史が好きで歴史書を多く読みますが、作家の故・司馬遼太郎さんがお書きになられた歴史小説もほとんど読んでいます。中でも幕末の長州藩の松下村塾を舞台にして、師の吉田松陰とその門下生の高杉晋作の二人の人物を描いた『世に棲む日日』は、還暦を過ぎた今も私の座右の書になっています。

生真面目な吉田松陰と破天荒な高杉晋作。日本では吉田松陰を知る人に比べて高杉晋作を知る人は意外に少ないと思われませんが、高杉晋作がいなければ明治維新の到来は何年も遠のいたといわれています。幕末の長州藩では幕府を恐れ、幕府支持の俗論党が藩政を牛耳った時期が続きましたが、時流を見抜いた高杉晋作が功山寺でわずか八十人の手勢を率いて挙兵し、その

結果、挙兵が成功して藩論が倒幕へと変わります。高杉晋作は、維新前に病没し、師の吉田松陰も江戸で刑死、坂本龍馬は京都で暗殺され、そして松下村塾で高杉晋作の好敵手だった久坂玄瑞も京都で戦死しています。このように幕末を彩った一流の人物たちはいずれも明治維新を迎える前に没しているのです。

高杉晋作に心酔し、彼に従い、ともに戦って明治政府で初代の内閣総理大臣になった伊藤博文も、局面、局面における高杉晋作の戦上手にほとんど感服しています。作品中、まだ長州藩では反乱軍の首領にすぎなかった高杉晋作が下関で伊藤博文たち同志に「これから、(長州藩の)三田尻の海軍局に海軍を奪りにゆく」という場面があります。伊藤博文たちは顔を見合わせて

返事もできませんでした。しかし、高杉晋作にはそれが可能として見えていたのでした。三田尻に着いた高杉晋作は軍艦三隻の艦長に軍艦の引渡しを要求、艦長たちも「幕府に没収されるよりは、晋作にくれてやったほうがいい」と喜色を浮かべて引き渡します。やがて、高杉晋作が軍艦三隻を率いて下関に戻って来たのを見た伊藤博文が「この男は人間か・・・」と、驚愕する場面が描かれています。

戦後、伊藤博文が高杉晋作の顕彰碑の建立にあたって書いた撰文の中に次のような一節があります。

「動けば雷電の如く、発すれば風雨の如し。衆目駭然、あえて正視するなし、これわが東行高杉君にあらずや。」



### ●● ふかたき じゅんいち ●●

昭和23年生まれ 長岡市栃尾地域出身。

長岡市役所を定年退職後、趣味の郷土史研究の傍ら長岡市の「まちの先生」を務める。

新潟日報短編小説賞入賞 自治労文学賞受賞。

栃尾の上来伝区の天神様の「ごを書く石」、「栃尾のてまり祭り」、「杜々の森のあぶらげ祭り」他イベントを多数発案、実施。

著書に『士魂の実業家・外山脩造伝』、『ふるさとの太平記伝説』、『魂の教育者・寒川道夫伝』等がある。

# 長岡市立図書館の歴史

## 第2回 昭和元年～ 昭和20年

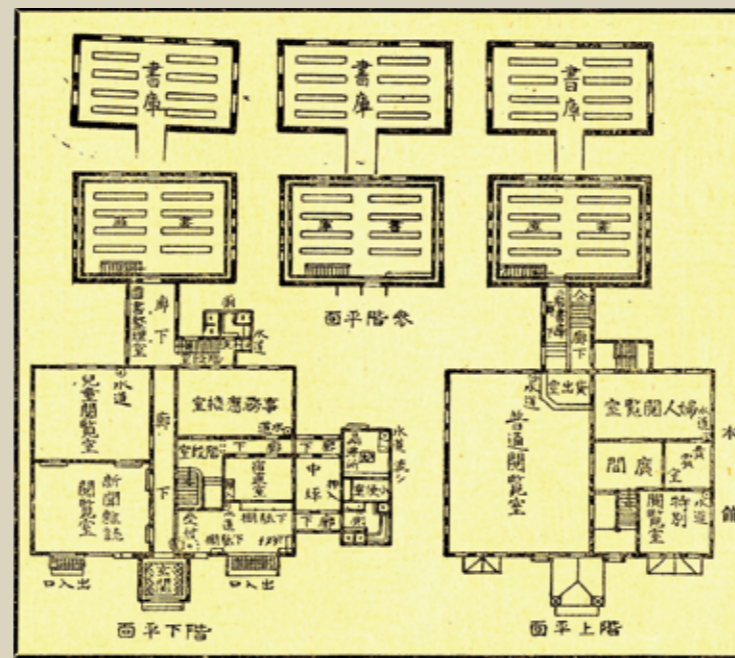
当市の市立図書館は2018年に創立100周年を迎えます。「図書館の窓から」では、年に1度、8回にわたって「長岡市立図書館の歴史」と題し、互尊文庫という名称で設立されてから、今日に至るまでの歴史をひも解いていく特集を連載します。図書館が見つめてきた1世紀とは一。今、歴史の扉が開かれます。

大正7 (1918)	大正記念長岡市立互尊文庫開館
昭和2 (1927)	1月6日、特別閲覧室に読書相談所開設
昭和3	6月、互尊翁銅像除幕式挙行
昭和4	3月5日、 <b>家庭文庫創設 a</b> リヤカーに柳行李(70冊)を積み申込家庭を訪問
昭和7	8月31日、喫煙室・休憩室新設
昭和8	講習会、読書会(年9回)、講演会(3回)、児童お話し会、図書館週間作業(書庫公開・新旧雑誌展覧会)、文庫内での各種会合
昭和10	2月、全国優良図書館として、文部省の推薦を受ける。
昭和11	5月1日、本館庭園に緑陰文庫を開設 12月4日、野本恭八郎死去
昭和12	10月、時局文庫を創設 12月、互尊翁の遺志による、 <b>第2書庫竣工 b</b> (鉄筋コンクリート3階建)
昭和14	5月、郷土室を開設
昭和16	1月10日、市内在住傷痍軍人に図書携出優待券を交付 12月、太平洋戦争爆发
昭和17	5月4日、日赤支部病院に入院加療中の傷痍軍人に図書貸出を開始 戦災前人口7万人余の地方都市で図書資料約8万冊を要した互尊文庫は、全国市立図書館中5指に数えられる
昭和18	10月、灯火管制実施。開館時間が午後5時までとなる
昭和19	新聞室・休憩室を市警防団に提供
昭和20	ほとんどの図書館行事を停止 <b>8月1日午後10時、空襲により蔵書78,000冊すべてを失う c</b> <b>9月11日、第2書庫2階を閲覧室(18坪)として開館 d</b> (日本互尊社、三条市立図書館・新発田市立図書館・県立新潟図書館等の応援、有志の寄贈)

**a** 図書館初の移動図書館として、事前に申込をした家庭に図書7冊を入れた箱を20日毎に取り替える形で始まりました。後に、柳行李に図書70冊程度を納めて訪問し、その中から2冊貸し出す方式に変更されました。多いときで60件程度の依頼があり、リヤカーや冬はソリに乗せて運搬していました。  
このサービスは昭和14年まで続けられ、後に自動車文庫へと引き継がれます。

**b** 第2書庫ができた時点での図書館の大きさ(延べ床面積)は、本館が約653.28㎡、書庫が併せて約416.52㎡あり、合計すると現在の互尊文庫の延べ床面積の約7割に相当します。  
戦前の昭和16年度には下表の利用があり、現在より人口の少ない当時の人々の知識欲がいかに旺盛だったかをうかがい知ることができます。

	貸出冊数	貸出者数	所蔵冊数
互尊文庫(昭和16年度)	247,555冊	244,024人	71,162冊
中央図書館(平成22年度)	746,591冊	182,702人	396,900冊



▲戦前の互尊文庫見取図

参考文献：『ふるさと長岡の人びと』長岡市編集発行、『長岡市立図書館創立90周年記念誌—図書館の未来に向けて—』、『大正記念長岡市立互尊文庫一覽』

**c** 昭和20年(1945)7月になると、米軍飛行機が毎日のように飛来し、警戒警報や空襲警報のサイレンが市内に鳴り響きました。

互尊文庫には78,000冊の重要な図書や文書が所蔵されていました。それらを疎開させる必要がありましたが、疎開先やトラックの手配などがうまく進んでいませんでした。そのうえ、大量の図書を梱包する必要があり、人手も不足していたことから、当時の市教学課の職員や学校の管理員も動員し、8月1日午後5時ようやく完了しました。翌朝には古志郡六日市村渡沢の田中家の土蔵に運ばれる予定でした。

8月1日午後10時26分警戒警報から空襲警報に切り替わると同時に、焼夷弾の投下が始まりました。街は火の海となり、東坂之上町1丁目にあった互尊文庫は、猛火を消すことも出来ず、本館は全焼、第1書庫はレンガが崩れ落ち、第2書庫は窓から火を吹き数日間燃え、資料も全て焼失してしまいました。



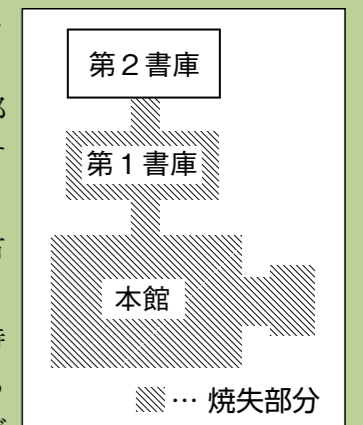
▲火を吹く互尊文庫の書庫  
土田 邦彦/画

**d** 互尊文庫としては、市民に少しでも心のゆとりを与えることができよう、一日も早く開館したいと、図書の収集に力を注ぎました。

新刊図書の購入はできないことから、有志富裕者に図書の寄付を募りました。日本互尊社、県内図書館や関係有志からの寄贈により約5,000冊を収集できました。

その結果、罹災40日目の昭和20年9月11日に外郭のみを残した第2書庫2階を閲覧室として開館することができました。

18坪の閲覧室に、焼け残った長岡国民学校の古机、古いすを借用しての開館でした。戦時中以来、活字文化に飢え、しかも本など手に入れがたい時代、施設設備の貧弱さを気にもとめず閲覧に訪れる市民は多く、閲覧室が狭くなり対策を講じなければならなくなっていました。



▲戦災後の互尊文庫見取図

山本五十六は、明治17年（1884）、長岡藩士高野貞吉の6男として生まれました。高野姓でしたが、戊辰戦争で亡くなった家老山本帯刀たてわき（家名断絶、後復元）の家名を継ぎ、大正5年（1916）山本五十六となりました。

山本五十六は旧制長岡中学校卒業後、海軍軍人として日本の平和を思う心をもって生涯を貫いた、歴史上に名を残した人です。とりわけ、アメリカとの戦いには絶対反対の意思を持ち続けましたが、国が戦争を決した際は、やむにやまれぬ気持ちで戦線に立ち、最後は戦場で死を遂げました。昭和18年（1943）4月18日のことです。

書をよくし、筆まめな人で多くの書簡を残しています。これは、人を大切にし、思いやる心をもって生き抜いた証といえます。

右の書は『新註墨場必携』中の岳珂がくかの14字を書いたもので、自分の心情をよく表したのものとして選んだと考えられます。

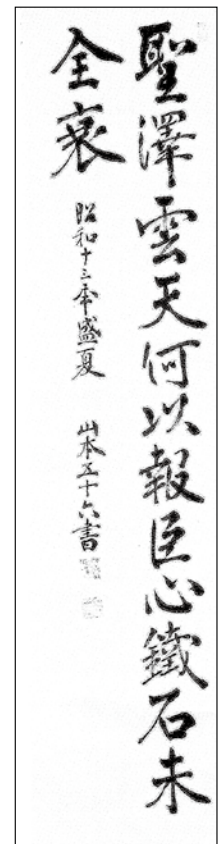
「君（天皇）のめぐみは雲や天のように広いが、何をもって御恩返しをしたらよいか。自分は臣下としての心は鉄や石のように堅固で、精神はまだ全く弱ってはいない」と。

（今井 雄介）

昭和十三年盛夏 山本五十六書

聖澤雲天何以報。  
臣心鐵石未全衰。

聖澤雲天何を以てか報いん。  
臣心鐵石未だ全く衰へず。



郷土資料紹介

読むタイムトラベル④ 近代 in 越後

『「裏日本」はいかにつくられたか』

阿部 恒久／著 日本経済評論社

最近、聞かなくなった「裏日本」という言葉は、幼い頃の私にとって、冬の新潟を感じさせる物悲しい言葉でした。この本は、まさにその「裏日本」という言葉の起源を探る一冊です。1900年頃に使われだした「裏日本」は、当初、単に地理（地勢）上の概念だったようです。しかし、交通（道路・鉄道）整備や産業育成の遅れに人口流出や当時のデフレも重なり、しだいに政治的・経済的・社会的の地域格差をも含むようになりました。新潟県では大地主たちの保守性が、地域経済の活性化を遅らせた一因ではないか、と論じています。



『歴史の中の新潟人国記』

佐藤 国雄／著 恒文社

新潟県出身者が深いかわりを持つ事件・話題を取り上げ、幕末から平成初めにかけての日本近代史が刻まれます。登場人物は、貞心尼、河井継之助からトキのキンちゃんまで、有名無名を問わず実に多彩な顔ぶれで、いかに日本近代史に県人が足跡を残してきたかを実感させる内容です。堀口大學の父、堀口九萬一が、外交官時代に関係した事件など、日本の政治・経済・文化に影響を与えてきた県人の活躍を再認識できる一冊です。

（徳永 馨）

# 食べる

【たべる】  
eat

食物をとる。一般に口に入れた物をかんでから体内に取める行為を指す。

「食べる」こと —— 私たち人間にとって欠かすことのできない行為です。

辛いもの、甘いもの、酸っぱいもの・・・好きなもの・美味しいものが多すぎて、つつい食べ過ぎてしまう今日このごろ、本の中にも美味しい情報が満載です。



『みんなの朝ごはん』

朝時間.jp / 著 大和書房

あなたの今日の朝ごはんはどんな朝ごはんでしたか？たかが朝ごはん、されど朝ごはん、朝ごはんについて、本気で考えた一冊です。



『日本の朝ごはん』

向笠千恵子 / 著 新潮社

朝ごはんは、一日のエネルギー補給のスタートとなる大切な食事です。北海道から沖縄まで、自慢の朝ごはん20膳を紹介します。



『食堂かたつむり』

小川 糸 / 著 ポプラ社

恋人に振られた倫子が開いた食堂かたつむり。「食堂かたつむりで食事をすると恋や願い事が叶う」そんな噂を聞いた人達が次々と訪れて…心がほっとする物語です。



『食べもの記』

森枝 卓士 / 著 福音館書店

世界各地の市場や屋台等の様子をたくさんの写真で紹介されています。どれも美味しそうな写真ばかりで、眺めていると何だかお腹が空いてくるような1冊です。



『家で食べるごはんが一番アルネのかんたん料理』

大橋 歩 / 著 アルネBooks

たまには外食もいいけれど、やっぱり家で食べるご飯が一番。日々の食事作りの参考になります。



『おいしいハンバーガーのこわい話』

エリック・シュローサー / 著 草思社

世界中で毎日のように食べられているハンバーガー。おいしい裏には秘密があります。例えば、フライドポテトには意外な香料が…。

## 食べたくなる本、まだあります

### ●お米でできるいろいろメニュー

『私のイタリアンごはん』 栗原はるみ / 著 扶桑社

『毎日食べたいおかゆ』 葛西 麗子 / 著 家の光協会

『おにぎり★パラダイス』 主婦の友社 / 編 主婦の友社

### ●暴飲暴食のあとに

『おばあちゃんの手当て食』 梅崎 和子 / 著 家の光協会

『食べるクスリおかゆ』 崔 智恩 / 著 ブロンズ新社

『つぶつぶ雑穀ミラクルスイーツ』 ゆみこ / 著 パルコ

## イベントガイド（1月～3月）

全て参加無料

### 【読者のつどい】 互尊文庫1階 児童室 19:00～20:30

テーマの本の感想を話し合い、人生観や文学論などを自由に語り合う会です。

- 1/27 (金) 『本所深川ふしぎ草紙』 宮部みゆき／著  
 2/17 (金) 『重力ピエロ』 伊坂幸太郎／著  
 3/23 (金) 『武士の娘』（予定） 杉本 鉞子／著

### 【子どもの本を読む会】 中央図書館2階 講座室2 10:00～11:30

作者や作品についての感想、テーマの本についての思いを語り合う会です。

- 1/11 (水) 参加者お気に入りの本を持ち寄ります。  
 3/14 (水) 新潟県の作家 『冒険者たち ガンバと十五ひきの仲間』 斎藤 惇夫／作

### 【映画会】 中央図書館2階 講堂 14:00～

- 1/8 (日) 「道」(1954年イタリア) 10:00～、「黒いオルフェ」(1959年フランス／ブラジル) 13:30～、「汚れなき悪戯」(1955年スペイン) 15:30～  
 1/22 (日) 「ウィニング・パス」(2003年日本)  
 2/12 (日) 「さよなら子供たち」(1987年フランス)  
 3/13 (火) 「地下室のメロディー」(1963年フランス)  
 3/25 (日) 「おくりびと」(2008年日本) 10:00～、14:00～の2回上映

### 【早春コンサート2012】 3月18日(日) 中央図書館2階 講堂 14:00～

弦楽四重奏を楽しむ会です。皆様のお越しをお待ちしています。

定員：180名(先着) 対象：中学生以上

申込：3月1日(木) から中央図書館窓口または電話にて受付開始

## 図書館ニュース

### ◆新聞コーナーに「福島民報」が加わりました。

日本図書館協会から、復興支援事業として「福島民報」が中央図書館に寄贈されることとなりました。

期間は平成23年11月分から平成24年3月末分までです。

福島の今を見ることができる貴重な資料です。この機会に是非ご覧ください。

なお、新聞社からの郵送によるため、到着が発行日の翌日または翌々日となりますので、予めご了承ください。



▲中央図書館新聞コーナー

### 【特別図書整理期間に伴う長期休館のお知らせ】

2月に所蔵資料の一斉点検を行うため、長期休館いたします。これに伴い、次の期間中、貸出点数を20点（うち視聴覚資料は6点まで）にいたします。

図書館名	休館する期間	貸出点数変更期間
中央図書館	2/20(月)～2/29(水)	2/7(火)～2/19(日)
互尊文庫、西・南・北地域図書館	2/23(木)～3/1(木)	2/7(火)～2/22(水)
中之島・寺泊・栃尾地域図書館、大河津地区図書室	2/23(木)～2/29(水)	

名称	電話	休館日
中央図書館	32-0658	毎週月曜日(祝日の場合は翌日) 毎月の末日 特別図書整理期間
互尊文庫	35-7981	毎週木曜日(祝日の場合は翌日) 毎月の末日 特別図書整理期間
西地域図書館	27-4900	
南地域図書館	30-3501	
北地域図書館	22-7100	
中之島地域図書館	61-2165	毎週月曜日(祝日の場合は翌日) 毎月の末日 特別図書整理期間
寺泊地域図書館	75-5159	
寺泊地域図書館 大河津地区図書室	0256- 97-2497	
栃尾地域図書館	53-3005	
文書資料室	36-7832	互尊文庫と同じ
栃尾美術館	53-6300	毎週月曜日(祝日の場合は翌日) ※展示替等による臨時休館あり

### ~~~~ あとがき ~~~~

昨年末に山本五十六の映画が公開されました。図書館では五十六の伝記や映画の原作本等を多数取り揃えています。読んでから観ますか？観てから読みますか？（渡邊 恭子）

平成24年1月1日発行

編集・発行 長岡市立中央図書館

住所 新潟県長岡市学校町1-2-2

編集員 渡邊 恭子 渡辺 雄亮 山本 祐子  
山田 紀子 岩本 純子 横山知加子

メールアドレス lib@city.nagaoka.niigata.jp

HPアドレス http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp

印刷 北越印刷(株)